

1. 今回の研修は有益でしたか。

- 被曝に対する物理的、生理学的、精神的な影響について把握することができました。

2. この研修で得た知識、または技術を実際にどのように利用するつもりか説明してください。

- 何があっても放射能に露出されるのは危険だと思っていたが、必要ならば危険を最小限に抑えながら看護業務ができることが分かったし、それを他の看護師に教育したい。
- 精神的に落ち込みやすい患者に対し、心のケアもできるようになりたい。

3. HICARE の事業をより改善するために、今回の研修に関するあなたのご意見をお聞かせください。カリキュラムや期間、その他について。

- 看護師を対象とした研修を大変ありがたく思った。
- 広島大学病院で、高度救命救急センターと、放射線治療科で直接患者を回診する様子を拝見させていただき、とても印象的だった。
- とても有名でお忙しい先生方を、よくも効率的にスケジュールを組まれたと感心している。

4. 広島での滞在について

(1) 広島での生活にどのような印象を持たれたか教えてください。

- 広島はその不幸な経験を過去の痛ましい災難として終わらすのではなく、一つの文化遺産として高め、人類に絶えず警告のメッセージを発信しているようだった。
- 車のクラクションを一度も聞かないほど他人の配慮を感じ、韓国では女性ドライバーは怖くて運転し難いので羨ましく思った。

(2) 広島での滞在中、日常生活で不便を感じたことがあれば教えてください。

- 担当者から事前に幅広い情報を貰っており、一人になってもそれ程困ることはなかった。

5. 研修を終えて感じたこと

- HICARE の役割は、過去の被爆者を対象として研究と治療を行う機関だと思って参加したが、大変体系的で前向きに事業を広げる組織であることが分かった。
- 被爆者に対して金銭的な補償のみならず、病気の予防活動、早期治療、健康増進、養護ホームの運営、そして放射能が人体に及ぼす長期的な影響に対する持続的な研究と、その結果を各国の研修生を招くことで共有する国際協力活動に驚いた。
- 鎌田先生の哲学を通じて、研修だけでなく自分の人生を振り返る契機になった。ワーズワスは、私達の人生には「時の諸点」があり、この鮮明に表れる点には再生の力があると言ったが、広島の日間は、私の情熱を再び呼び起こす幸せな私の人生の「時の諸点」になった。
- 谷川先生がへりに乗られて福島で患者を救援されたように、私も放射能の無知から先生に救援された感じがした。現在 23 基の原発が稼働する韓国で、もし事故が発生した場合も、無知による恐怖心を持たず、救援活動の支援ができそう。
- 養護ホームの入居者の顔に過去の悲しみは見えなかった。ホームの環境をみて、お！これがまさに先進国だと思ったが、環境だけでなく心までもが先進国だった。